

やまもりキャンプ通信

2011.8.8(月)~10(水) 第2回「ひんやり! 溪谷ハイキング」



アメニモマケズ、カミナリニモマケズ…

暑いくらいの日差しの下で、汗をかいたかと思ったら、もくもく黒雲、夕立ちドカーン! エキサイティングな天気の下「第2回やまもりキャンプ!」子ども達の元気に、雷様もたじたじのキャンプが始まりました!

雨の森へ



今回のキャンプはいつもの自然学校ではありません。「**松本コースキャンプ場**」は初めて行く子ども達も多かったのではないのでしょうか。同じ清里でも、いつもの森じゃないという緊張感が、子ども達からも伝わって来ました。神秘のレノックス野外礼拝堂から未知の森へ。

サンダルで森へ来てしまったHちゃんは、足に当たる草や

泥も我慢して、そーっとそーっと進みます。小川があると、ほっとしたように足を浸して、水の感触を確かめています。せっかく持ってきたスニーカーが、笹の露であったという間にびしょ濡れになって「明日には乾くかなあ」と気にしていた子も。

黒雲が太陽を遮るいつもより暗い森の中。

子ども達がそれぞれ見つけた不思議は何だったのでしょうか。



やまもりこぼれ話♪

夜の散歩に出かけようとして、水たまりに足がまってしまったTちゃん。これから出かけるのに、靴が濡れてしまいました。「どうしよう…」思わず涙があふれます。そんなとき、周りにいる子から、優しい言葉がたくさんかかります。何度か森に来ている子が、ビニール袋を履けば靴下に水が染みないことを教えてくれました。スタッフにビニール袋をもらい、Sちゃんが丁寧にしわを伸ばしながら履かせてくれます。履き終わったTちゃんは「これすごい! 全然濡れない!」と笑顔。足が快適になったこと以上に、みんなの優しさがTちゃんの涙を笑顔に変えたのかもしれないですね。



キャンプでは、みんなで食べる食事大切な時間です。キャンプ場のおじさんからは「残さず食べよ!」の気持ちよ一言。食べられる分だけお皿に取って、みんなで分け合ってくださいます!

溪谷ハイキング

昨日とは違って変わって、晴天で始まった2日目！いよいよ川遊びへ向かいます。険しい登り坂を元気に突っ走る子ども達、ゆっくりでも頑張ってる子ども達。

川を見つけると、子ども達は歓声をあげながら水着に着がえます。溪谷の水は透き通っていて、ひんやり冷たい！ドボンと飛び込む子、恐る恐る足をつける子。みんなそれぞれの方法で水と仲良くなっていきます。みんなが持ってきた水鉄砲は、バズーカみたいなものから、なんとマヨネーズの空き容器まで（これ面白いくらい飛びます）。水鉄砲総力合戦で大騒ぎ。スタッフも巻き込んでみんなびしょ濡れになってしまいました…。

おやつはひんやり冷えたキュウリ。同じキュウリでも、お家で食べるのと川で食べるのではどんな違いがあったでしょうか。



お弁当を食べてエネルギーチャージしたら、さあいよいよ帰り道。

県営牧場を一気に駆け抜けて…と思ったら、大量のトンボが…！

さあ今年も始まってしまいましたトンボとり合戦。

こうなると子ども達は、トンボがとれるまで動きません。

子ども達はこういうことが本当に上手ですね。



トンボに催眠術をかけて眠らせたり、他の生物を食べさせたり。

子ども達が「生きる」と「死ぬ」に出会う貴重な瞬間に大人が出来ることは、たっぷりの「時間」をあげること。



作戦会議

早くも2011年度やま もりキャンプの恒例となりつつある作戦会議。異年齢の子ども達の話し合い。貴重な場面です。やま もりキャンプでは「子ども達に任せる」という場面をできるだけ多くしたいと考えています。

「明日の森あそびはどんなことがしたいですか？」
「ぜったい虫とり！」と高らかに叫ぶ男の子達と、
「虫とりはちょっとなあ…」という女の子達。意見が分かれてしまいましたが、そこはさすが今回の最

年長、5年生のMちゃんとAちゃん。見事なコンビでみんなの意見をまとめてくれました。今回は「虫とり」と「広場でゲーム」に分かれて遊ぼう！

大人が話しても中々耳を傾けてくれない子ども達も、上級生が話を始めると、ちゃんと聞いてくれたりする。大人には入り込めない、子ども達同士の関係というものがあるのですね。



バーベキュー

お待ちかねの夕食は、なんとバーベキュー！

お肉にお野菜、トウモロコシに焼きそば！これまたMちゃんとAちゃんの名コンビが、汗をかきかき鉄板でお肉を焼いてくれました。お手伝いする二人もイキイキ、食べるみんなもイキイキ！今日はたくさん歩いたから、みんなすごい勢いでおかわりします。焼いても焼いても追いつかないくらい。



たき火

暗闇の森へ、焼きマシュマロの為に枝をみんなで探しに行きます。太すぎず細すぎず、マシュマロを先に刺してこんがり焼けるような、ちょうど良い長さの枝。

だけども思い思いに持ってきた枝はみんな違って、それでうまく焼けるのかな？と心配になる枝も。でも子ども達には、それでマシュマロを焼くビジョンがちゃんと見えていて、その枝を選んできたのですね。

雨の森から拾ってきた薪は湿っていて、中々火が付きません。

ギターを弾いてみんなで「燃えろよ燃えろ」や即興で作った炎応援歌「フレーフレーほのお！」を歌って炎を盛り上げました。



キャンプ2日目、8月9日は私たちにとって特別な日でした。1945年、長崎に原子爆弾が投下された日から66年、やまもりキャンプの行われていたちょうどそのとき、隣のキャンプ場では、未だ戦争の続くイスラエルとパレスチナの女子高生達が、日本の若者と交流するキャンプが行われていたのです。お互いを知ることから、平和への一歩が始まる…。小さな焚き火を囲みながら、子ども達と平和について考える時間を持ちました。みんなで歌をうたい、絵本を読んでから、平和について話をしました。震災以降、命について考える機会が多かったのでしょうか。子ども達は、真剣にスタッフの声に耳を傾けていました。話し終わると、ぼつりぼつりと言葉がこぼれてきます。静かな森の夜、子ども達のまっすぐなまなざしに、未来への希望を感じました。

掃除

最終日は朝から大変でした。何せ、布団を畳む、荷物をまとめる、3日間使った部屋を綺麗に掃除する。チェックアウトは子ども達にとっては大仕事です。

早く森に遊びに行きたい子ども達、掃除するよりものんびりしたい子ども達。

1年生にとっては忘れ物のないように荷物をまとめるだけで大仕事だし、早く森へ行きたい子ども達にとっては、思うように掃除が進まないのがじれったい。「なんで掃除なんかしなきゃいけないの？」と思う子もいれば、まるでホテルの従業員のように綿密に掃除してくれる子ども達もいる。同じグループの中にもいろんな考えの子ども達がいる、気持ちの衝突もありました。「どうせ掃除の人が来るんだから、おれ達が掃除しなくてもいいじゃない」という声があがったりもします！「来た時よりも美しく」の意味を、分かってもらうのは難しい。結局子ども達が森へ出たのは、ずいぶん時間が経ってからですが、この時間に子ども達が考え感じたことは、どんなことであれ学びとなったのではないのでしょうか。

森遊び



3日目はすいぶん晴れ渡り、きらきら輝く広場で子ども達が駆け回りました。

「**だるまさんの一日**」は子ども達が教えてくれた遊び。ころんだ…の代わりに、だるまさんが顔洗った…など一日の動きを真似するそうです。

ボール紙を、**フリスビー**みたいに飛ばして遊ぶ子ども達。四角いボール紙なのに本当によく飛ぶんです

(ちょっとコツがいります)。

小川に半分顔を突っ込んで、**オタマジャクシ**を取る子ども達。Sくんは夢中になりすぎて、泥沼にひざまで入り込んでしまい、足が抜けなくてピンチ！結局全身泥だらけになって脱出しました。

ほんの1時間ちょっとの短い時間なのに、こんなに様々な遊びで楽しむことができる。子ども達の力に驚かされるスタッフでした。



思い出づくり

今回もバンダナに寄せ書きをします。いろんな人にサインをもらいに行く子どももいれば、自分でバンダナにデザインしたりイラストを描いている子どももいました。3日間で仲良くなった子ども達、衝突した子ども達、みんな入り混じって寄せ書きをしていました。

またここに帰って来られるように。

3日間過ごした仲間達とこれからも会えるように。



2011 年度より、毎回「やま もり みんなのうた」を作ることになりました。みんなが知っている歌を替え歌にして、子ども達から言葉を拾い、一緒に歌詞を作っていきます。その時感じたことや言葉を、歌としてずっと口ずさむことができるように…という思いから始めました。今回も素敵な歌が出来ました。どうぞ歌ってみて下さい（山田証）

食べる・寝る・あそぶ・・・

キャンプ場のいいところは、一歩でれば森だということ。ご飯を食べたり、集まっている時に、シオカラトンボやオニヤンマが頭の上をすーっと飛んでいきます。夕立の音がたいこのように響きます。今回は、川俣渓谷に行って川遊びをするぞ！と張りきっていましたが、キャンプの数日前に、集中豪雨による増水で事故がありました。驚かすわけではありませんが、自然の中で活動することは、いつも危険と隣り合わせであること、雨がずっと増水し地盤が緩むこと、大人が危ないと判断した予定を変更をすること、などなど真剣に話をしました。出発前の緩みきった雰囲気にあーちゃんとかきっちゃんが「カ〜ツ！」久しぶりの怒りの大噴火でした！でも、自然現象の話をしっかりとすることは小学生の子ども達にとっても大切だと思っています。知識や判断につながっていきます。その一方、雲を見たり風を感じたりして感覚として身につけていく、そんなふうに自然とつき合ってほしいな—と思っています。生活・保健担当：黒田あや（あーちゃん）

「やま もり みんなのうた」(2はん) (新沢としひこ「世界中のこどもたちが」のメロディで)

くつがドロドロろんこ ころんだらさらに
ドロドロ いしがいっぱいデコデコポコ く
つがたべられるぬま かみなりゴロゴロピカ
ピカ かわでいしをわたって ころんでもも
りのはたのしい どうぶつのもりおじゃましま
す

バーベキューにくうまい トウモロコシまだ
ですか やきそばはメンだけだ おかわりは8
かいめ

ひがしんりゃくするみたいに おおきくなっ
たよ マシュマロのいいきみつけた フレフ
レ キャンプファイヤー みんなでうたうた
ったよ ひのこながほしみたい ゆっくりみ
れたよホテル ヤマネもいたらいいね

もりのなか くさはらがうごいてた なんだ
ろう よるごはんもあさごはんも とてもお
いしかったよ

おばけのてがたつてた バナナからイモム
シでた カブトムシ ナツアカネ みっかか
ん ありがとう

やまもりの 宝物 (編集後記)

今年の夏は、テレビの影響が例年になく賑わっていた清里高原。清泉寮周辺の人ごみをよそに、キャンプ場の周りにはあまり人も通らない静かな空間が広がっています。森を貸切にしているような雰囲気の中、子ども達はやりたい放題！スタッフに怒られようと、リーダーにあきれられようと構いなしです。最初はどうなることやら…とと思っていましたが、さすが、やま もりの子ども達！輪になって話し合いをするとき、焚き火を囲むとき、森へ入るとき等等…ちゃんと集中して、話している人の言葉に耳を傾けています。遊ぶときは遊ぶ、やるときはやる！という子ども達のたくましさを感じました。はしゃぎすぎてカミナリを落とされていた子が、平和の話にひとつひとつ頷き、夜スタッフのところへ「今日の渓谷、本当に楽しかったなあ…ありがとう」なんて改まって言いに来たりするのです。本当に素敵な子どもたち。やま もり キャンプは、いつでもそんな素敵な子どもたちの応援団でありたいと思います。やま もり キャンプ事務局 坂上秋津（あきっちゃん）

「ひんやり！渓谷ハイキング」の仲間たち こども：

スタッフ：あきっちゃん（坂上秋津）、あーちゃん（黒田あや）、あかし（山田証）
リーダー：ちゃき（西川千晶）、ザーサイ（田上百合子）、やぎっち（八木幸大）